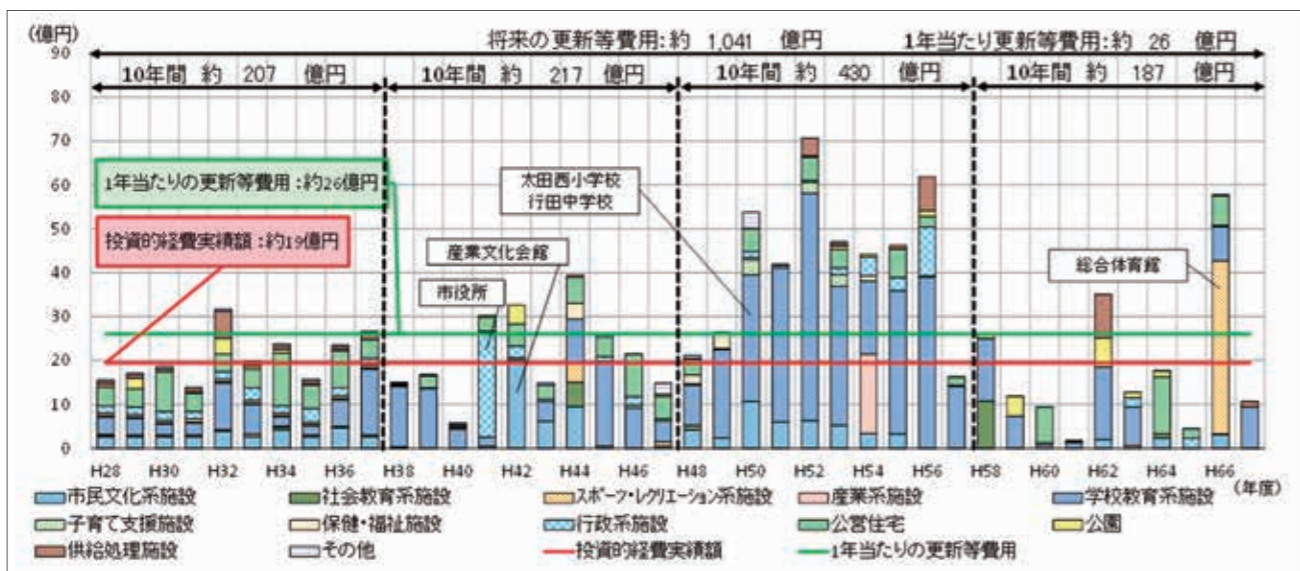


# 将来の更新等費用の見通し

今後40年間の公共施設の更新等費用の総額は、約1,041億円と推計され、平成50年代にピークを迎える見通しとなっています。1年当たりでは約26億円(グラフ中、緑のライン)と推計され、投資的経費実績額の約19億円(グラフ中、赤のライン)との乖離は約7億円となります。今後は、この差を埋めるために施設再編の取り組みや長寿命化などの各種方策を講じていくことになります。

※計画ではインフラ資産の将来の更新等費用の推計も行っています。

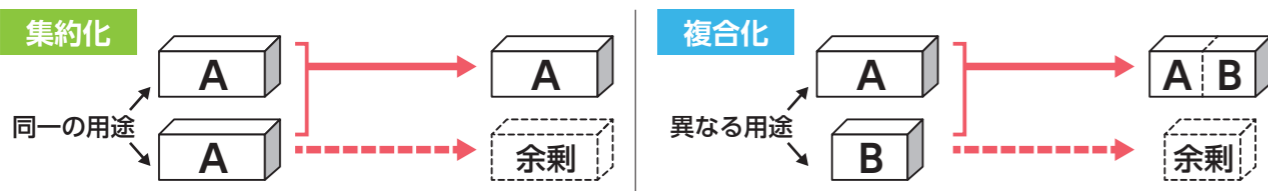
## ◆ 公共施設の将来の更新等費用の推計



# 施設再編の取り組み

公共施設の利用状況などを踏まえ、施設機能の移転や統合、廃止を含めた施設の再編を検討していきます。

## ◆ 公共施設の再編パターン



# 公共施設等の今後の取り組み目標

- 目標 1** 保有量の見直しによる継続可能な施設の提供を目指します。  
 → 公共施設の保有量(延床面積)を今後40年間で約27%削減  
 ※「年間削減目標」7億円÷「1年当たり公共施設の将来の更新等費用」26億円=27%
- 目標 2** より効率的な維持管理を目指します。  
 → 予防保全型の維持管理への転換など
- 目標 3** 安全で安心な公共施設等の提供を目指します。  
 → 耐震化や計画的な整備・更新など
- 目標 4** 新たなニーズに対応した市民サービスの提供を目指します。  
 → 集約化・複合化などによる機能の充実・見直しなど

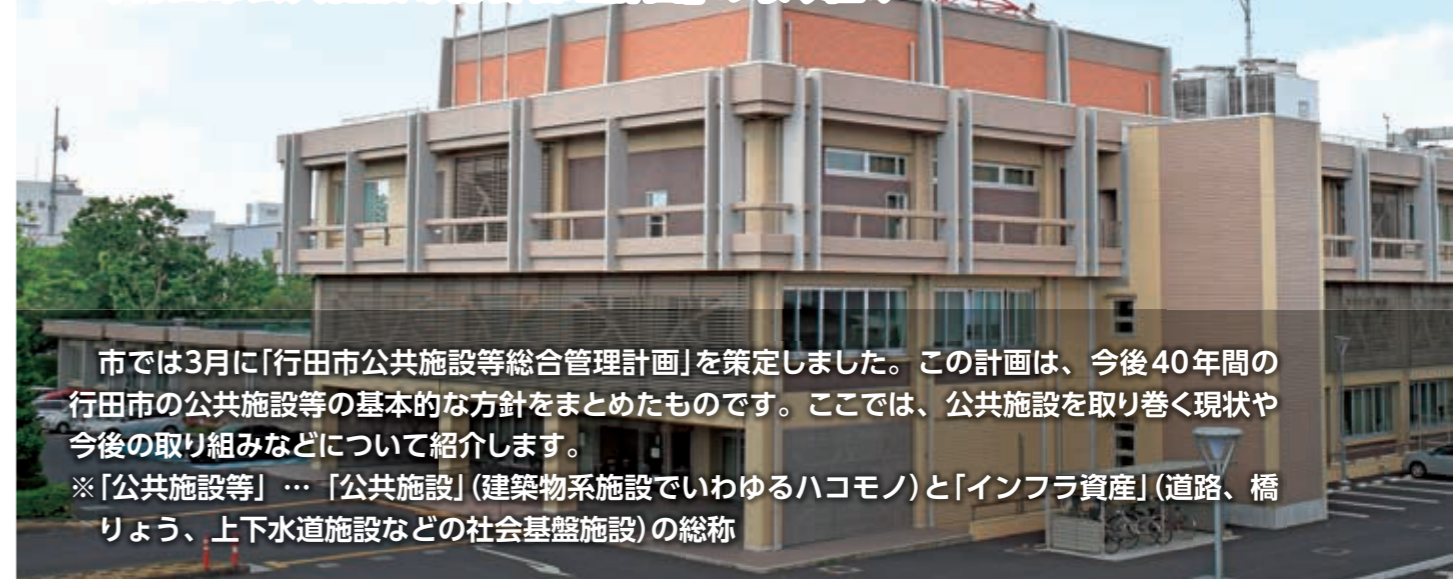
市では、今後この計画の基本方針を踏まえ、公共施設マネジメントについて、市民の皆さんの意見を聞きながら、取り組んでいきます。

※「行田市公共施設等総合管理計画」は市ホームページ、市政情報コーナー(市役所2階)でご覧になれます。

▶ 問い合わせ 改革推進室ファシリティマネジメント担当(内線327)

# 公共施設を考える

## ～「行田市公共施設等総合管理計画」の取り組み～



市では3月に「行田市公共施設等総合管理計画」を策定しました。この計画は、今後40年間の行田市の公共施設等の基本的な方針をまとめたものです。ここでは、公共施設を取り巻く現状や今後の取り組みなどについて紹介します。

※「公共施設等」…「公共施設」(建築物系施設でいわゆるハコモノ)と「インフラ資産」(道路、橋りょう、上下水道施設などの社会基盤施設)の総称

# 公共施設等を取り巻く現状

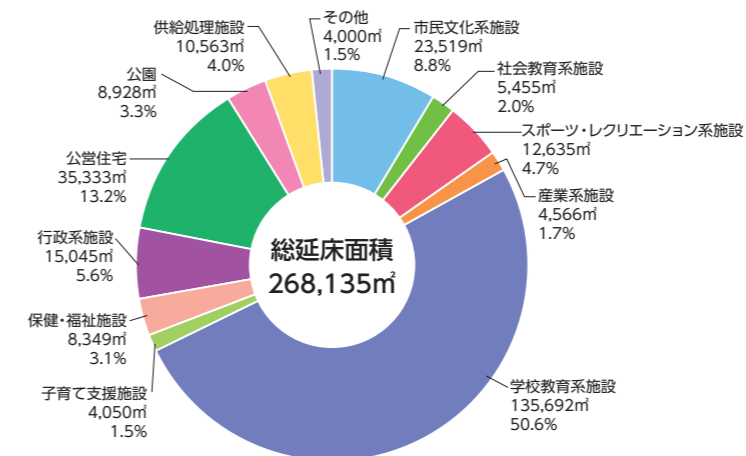
- 人口減少や少子高齢化の進行に伴う社会構造の変化  
 → 施設の利用ニーズが変化しており、公共施設の再編・用途変更などが必要
- 高度経済成長期に建設した施設の老朽化  
 → 施設の改修や更新時期が集中するため、財政負担の軽減・平準化が必要
- 税収の伸び悩みや義務的経費の増加などによる厳しい財政状況  
 → 施設の計画的な維持管理を図るため、事後保全から予防保全への転換が必要

# 公共施設等の保有状況

## ○ 公共施設

「行田市公共施設等総合管理計画」の対象としている公共施設は184施設で、延床面積は268,135㎡にのびます。このうち、学校教育系施設が135,692㎡と、全体の過半を占めています。

## ◆ 公共施設の施設分類別延床面積



(平成26年度末現在)

## ○ インフラ資産

### ◆ インフラ資産の保有量

分類	種別	施設数など
道路	一級市道	68km
	二級市道	686,134㎡
	その他の市道	66km
		447,732㎡
	計	975km 4,027,663㎡
橋りょう	橋りょう	1,109km 5,161,529㎡
上水道	橋りょう	4km
	管路	27,949㎡
下水道	管路	496km
	附帯施設	4施設 3,201㎡
簡易水道	管路	224km
	附帯施設	5施設 7,691㎡
公園	簡易水道	44km
	附帯施設	1施設 782㎡
公園	公園	82施設 630,183㎡

(平成26年度末現在)